

県内首長インタビュー④

飯能市 大久保 勝 市長 (63歳)



「飯能市の再生なくして日本の再生なし」を合言葉に
地方創生に取り組む大久保市長

■豊かな自然を体感・満喫できるまち

飯能市は、埼玉の南西部に位置し、県内3番目の面積を有します。山地や丘陵地、台地といった地形にも富み、入間川の源流から中流までの変化も見られる自然豊かなまちです。市の玄関口の西武池袋線の始発、飯能駅から終点の池袋までは特急で約40分、2013年には元町・中華街駅まで直通運転されるなど、埼玉・東京・神奈川を結ぶ始発駅となり、ますます便利になりました。また、飯能駅は奥武蔵の玄関口でもあり、一年を通じて観光客や登山客などの姿も多く見られます。

豊かな森林が面積の7割を占める飯能市は2005年に「森林文化都市」宣言を行いました。飯能市には、森林を育て、森林に育てられてきた人々の知恵や技術、森林とともに育

まれた生活スタイルや歴史が飯能の「森林文化」として息づいています。しかし、近年の林業の衰退など、従来の活気が失われつつあるため、市では豊かな自然や地域の生活文化を次世代に継承することを目的に、地域の人が地域の言葉で地域を案内するエコツアーを推進しています。ツ



地元のガイドが地元の言葉でご案内するエコツアー。ツアーも参加者も年々増加し、まちのPR事業の大きな柱となっています。(写真上：民家の軒先で買い物や地域の人々との触れ合いを楽しむ「お散歩マーケット」/写真下：清流を歩き自然を楽しむ「リバーウォーク」)

アーを通して人と触れ合い、その土地の自然や歴史、文化を楽しみながら体験することで、それらを守り、継承するための「エコツーリズム」に取り組んでいます。

2004年から始まったエコツーリズムは、全国でも先駆的な取り組みで、2008年には環境省が主催する「全国エコツーリズム大賞」で大賞を受賞、翌年には全国で初となるエコツーリズム推進全体構想の認定を受けています。市内では年間100を超えるツアーが行われ、参加人数は4,000人を超えるなど、市の観光事業としても大きな柱となり、市民と行政が一体となったこの取り組みは、全国からも注目を集めています。

■飯能市に元気と明るさを！

2013年8月に就任した大久保市長は、「行政を変える」「暮らしを豊かにする」「飯能を売り込む」という3つの柱を基本に市政を運営しています。なかでも「飯能を売り込む」ために、市長就任直後から飯能市の魅力を市内外に発信し続けています。

2014年には横浜市中区と「飯能市・横浜市中区友好交流協定」を結び、行政間、市民間、企業間での交流を重ねています。これをきっかけに、横浜市内では飯能市の認知度が高まり、「海の横浜・山の飯能」というお互いの特徴を活かしながら、両市区の活性化とともに、鉄道沿線地域の活性化も目指しています。そして同年8月には、友好交流協定に基づき、飯能市と横浜市中区をはじめとする6団体が行政、民間の垣根を越えて連携し、安心して豊かな地域社会を築くことを目的に「飯能市・横浜市中区友好交流協議会」が設立されました。協議会では、飯能市と横浜市中区をつなぐ相互直通ラインの魅力を高める

ために、それぞれの地域の活性化を図る交流事業やイベントの開催、西武線・みなとみらい線と連携した、飯能市・横浜市中区の魅力の発信などを推進しています。横浜市中区に続き、東京都墨田区でも飯能市の物産販売を行うなど、墨田区観光協会との交流も深めています。

また、大久保市長は、「民間の繁栄は飯能市の繁栄につながる」と確信し、市内への企業誘致などに汗を流しています。これらの施策を積極的に推進することで、飯能市が明るく元気になることを目指しています。

■まちの活性化の取組み

飯能市はアニメのまちとしても注目を集めています。月間漫画雑誌に掲載中の「ヤマノ

ススメ」は、内向的な主人公が、活発な幼馴染との再会をきっかけに、登山に臨む物語で、テレビ放送もされた人気アニメです。作品の主な舞台は飯能市で、実際に

存在する学校や建築物、風景も数多く登場します。市内では、アニメのキャラクターなどを路線バスの内外装に描いたフルラッピングバス2台が運行されるなど、アニメをきっかけにまちの魅力をPRしています。

また、2014年には、株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシーと連携して、



Copyright©2015 Moomin Monogatari,Ltd.All rights reserved
「北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設：Metsä」
「Metsä（メツァ）」はフィンランド語で森の意味。飯能の自然を舞台にムーミンの世界が広がります。多くのムーミンファンが2017年のオープンを楽しみに待っています。

「日本一のワクワクする街づくり」に取り組むための基本協定を締結しました。これは飯能市の認知度アップと魅力の発信を図るシティプロモーションの一環で、まちづくりや地域の課題解決などで連携し、市民の笑顔と元気あふれる飯能市の創造を推進しています。同年5月に開校した「飯能まちなかを元気にする会」による「飯能アッさらしー学園」では、市民講師によるダンス・カルチャーなどの講座や、よしもと芸人による特別講座などが開催されています。また、市民からも団員を募った「飯能市よしもとふるさと劇団」を立ち上げ、2015年2月に旗揚げ公演を行うなど、まちの活気を高めています。

■Metsä（メツァ）飯能に誕生

2015年6月、飯能市の観光振興や地域活性化の大きな柱となる「北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設 Metsä(メツァ)」が飯能市に設置されることが決まりました。これは、フィンランドを除くと飯能市が世界初進出となります。予定地は宮沢湖を中心とした東京ドーム4個分の広大なエリアで、美術館やリゾート、公園、レジャーなどが融合した施設となる予定です。2017年、子どもから大人まで幅広い人気のあるムーミンの世界が飯能の自然を舞台に展開されていきます。

今回の誘致は、前述のような飯能市の「森林文化都市」の理念が、ムーミン作品のテーマの一つである「自然との共生」と合致していると評価を受けたことが大きな要因であり、飯能市にとって地方創生における大きな柱としても、期待が寄せられています。



よしもとクリエイティブ・エージェンシーと連携した「ワクワクする街づくりプロジェクト」で、市民が笑顔で元気になる企画を次々と発信中！

飯能市の概要

人口(H27年埼玉県町(丁)字別人口調査)	80,546人
世帯数(同上)	33,756世帯
平均年齢(同上)	46.8歳
生産年齢人口比率(同上)	62.0%
面積(H26年全国都道府県市区町村別面積調)	193.05km ²
名目市内総生産(H23年度市町村民経済計算)	2,117億300万円
製造品出荷額等(H24年経済センサス)	1,654億971万円
事業所数(同上)	3,048事業所